

令和6年度使用教科用図書の採択に係る教育委員会会議 会議録

令和5年第8回中津川市教育委員会（定例会）にて付議

1. 日 時 令和5年7月26日（水） 午後1時30分～
2. 場 所 にぎわいプラザ 4-1会議室
3. 出席委員 教育長 岩久 義和
委 員 田島 雅子 橋本 あみる 山本 亮
4. 会 議 録 教科書採択にかかわる部分のみ抜粋

■教育長

続いて議第32号「令和6年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について」を議題としますが、その前に、この議事については、教科用図書採択の公正確保および適切な審議環境を整える観点から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき、非公開にしたいと考えます。また、本日の議事内容及びその結果についても、同一採択地区にある他市の採択に影響を及ぼすことを防ぐため、8月31日まで非公開にしたいと考えます。いかがでしょうか。

[異議なし]

■教育長

それでは、議第32号「令和6年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について」は、非公開審議といたします。

事務局から説明をお願いします。

[事務局（教育研修所長）から資料に基づき説明]

■教育長

ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

■委員

道徳が初めて導入されたときにも、恵那の文化会館で採択に参加したのですが、母親たちから「本が重い」という話が出ました。今回も最初に「本が重い」という

話が出ました。研究委員は、それぞれの本の重さも量って研究の対象にしておられました。また、特に東濃は若い先生が多いということで、誰でも教えることができることが重視されていたようでした。研究員たちは吟味を重ねて一番良いであろうものを推薦しておられました。5、6者あったときは、まず2者ぐらいに絞って、また吟味していくという形で、すごく時間がかかりました。

私は以前から、一番良いとみんなが認めるものではなく、2番目に良いと認めるものの方が選ぶに値するのではないかと思っていました。なぜかというと、一番というのは、子供たちの工夫の力、創造の力、コツを見つけた喜びなどがだんだんなくなってしまっているような気がするからです。2番目だとどこか緩いところがある、そこがこれから繋がるのではないかと思っていました。案の定「◎」の数が多い発行者が選ばれていったのですが、数学だけは、東京書籍が「◎」が6個、大日本書籍が「◎」が7個で、「◎」が6個の方が選ばれました。その理由は「児童が考える余地を残す」ということで、これに皆さんが賛同されました。それが非常に嬉しかったです。

■委員

東濃独自の基準で、経験年数の浅い先生でも教えやすいようにという基準があると伺いましたが、具体的には、教科書のどういったところの違いに着目してその基準を判断しているのでしょうか。

■教育研修所長

例えば教科書で言えば、どんな質問を投げかければ子供たちの考えが深まっていくかということが明示されているか、二次元コードで言えば、読み取った先にどんなコンテンツがあるか、といったことが話題になっていました。書写は従来、まず先生が水書板にお手本を書いて授業がスタートします。しかし、今は二次元コードを辿れば動画でプロの書道家が書いた字を見ることができます。しかも、児童が見たい時に見たい箇所絞って何度も繰り返し見られます。そういうコンテンツが充実しているものが、若い先生でも指導がしやすい教科書という視点として一つあったと思います。ただし、与えすぎてしまうことの是非は、子供たちに対してだけではなく、先生たちに対してもどうなのかということについて、論議の対象になっていました。

■委員

こんなにたくさんの時間をかけて検討してくださっていることは、子供にとってありがたいことだと思いました。東濃地区独自の基準の、「教員の経験年数に関わらず」というところで、子供用の教科書のほかに先生用の教科書があると思います。先生用の教科書の分かりやすさなども検討されたのでしょうか。また、教科書が変

わったりして、その使い方の研修会をされているのでしょうか。

■教育研修所長

「先生用の教科書」としては、子供たちが使っている教科書に指導のポイントを赤い字で記した朱書き本、単元ごとの指導計画が書かれた指導書等がありますが、今回の調査研究の対象にそれは入っていません。

1～3年目の若い先生を対象にした悉皆の研修会をはじめ、希望制の夜学という研修会で、どのように仕組みでいけばより効果的な授業ができるかということ、市教委主催で定期的に扱っています。

■委員

前から疑問でしたが、書写の本には最初に「鉛筆の持ち方」や「机に向かう姿勢」というのがありました。それは全部の本にあると聞きました。いろいろ学校を訪問すると、鉛筆の持ち方が本当にさまざまです。書写の本にある持ち方をしている子もいますが、全然違う子もいます。書写の本で最初に鉛筆の持ち方が書いてあるのに、なぜ直らないのか教えてください。

■教育研修所長

なかなかすぐには定着していきません。そこを繰り返し指導していく中で確実に定着していくようになっていくのが、今回選定された光村図書でした。新しく習ったことを取り入りながらこれまで習ったことを生かしていく、積み重ねをしていける工夫になっています。その中で、鉛筆の持ち方についても紹介されているのですが、なかなか定着が難しいところがあると思います。

■教育次長

ご指摘の通り、鉛筆の持ち方もそうですが、姿勢が本当に大事だと思っています。教育長訪問に行っても、教育長がときどき「足ピタ」と言われますが、「グー、ピタ、ピン」と言って、机との間隔がこぶしのグーで、足をピタッとつけて、背筋をピンというものです。昔は先生方がこだわってよく言われていたのですが、そういった先生も少なくなってきました。教育委員会としては、姿勢については小学校でも中学校でもきちんと指導してくださいと見届けながら言っています。今はChromebookがあるので、字を書くことはあまりしなくなったかもしれませんが、きちんと字を書く姿勢は、今後も教育委員会としても見届けて指導していきたいと思っています。

■委員

私は鉛筆の持ち方が変です。小さいときから変で、習字も習っていたし専用の鉛筆も持たされてやっていたんですが、だんだん自分の持ちたいようになっていってしまったと思います。親も「もういいわ、成績や生活に不便でなければ、がみがみ言

うよりはいいか」というふうで直っていかないのかなと思います。

■委員

姿勢は、椅子に座っていること自体が体力が要るし、体幹がしっかりしてないとふにゃつとなってしまう。これも最近、コロナ禍で運動ができなかったのも、各学校で力を入れて朝や帰りに走るなど、すごく重視しています。1時間座って授業を聞くのは、とても体力が要ります。まず、勉強する姿勢、力から付けていかないといけませんね。

■委員

教科書自体、検定を通ってきているので、内容の差はそんなに大きくないと思いますが、教えやすいとか教えにくいとか、違いはあるものなののでしょうか。

■教育研修所長

私の専門は国語ですが、国語で言うと、やはり発行者によって教えやすさに違いがあると思います。例えば、教材の本質に迫っていくような発問が一番用意されているのが光村図書だと感じています。年々改訂が進んでいくたびに、教科書が、授業者にとって教えやすいものになっていっていると、国語の教科書を見ていると感じます。

■教育長

今回の教科用図書の特徴に、二次元コードがたくさん掲載されていることがありました。あのコードから読み取れる内容は、国の検定上はどんな扱いがされていますか。

■教育研修所長

県からは、調査研究はあくまでも紙の教科書を対象にするようにという指導がありました。ただし、英語については、デジタル教科書という学習コンテンツが小学校全ての子供たちに来年度配布される予定になっているので、デジタル教科書も調査対象としても良いということを言われています。

全ての教科書発行者が位置付けている二次元コードについては、県も調査はしていますが、二次元コードが確実にリンクしているか、数がいくつかという程度の調査で終わっています。今、子供たちは1人1台Chromebookを持っていますので、これからは確実に使っていくという点から、中身に触れないわけにはいかないだろうという理由で、東濃採択地区協議会では二次元コードの内容についても調査を行っています。

■教育長

先ほど、当日の協議会に参加した委員からもお話がありましたが、早朝から終日にわたって各市から代表で来てくださった協議会委員に熟議していただきました。

私も何度もそういった会に関わっていますが、今回一番たくさんご意見、ご質問を頂戴した会だったと思っています。

それでは、議第32号「令和6年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について」は事務局提案どおり承認ということでよろしいでしょうか。

[異議なし]

■教育長

ありがとうございました。議第32号「令和6年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について」は、原案どおり承認とします。

